地域版 北薩

川内支局
薩摩川内市山之口[illegible]
☎0996-23-[illegible]
通信部
川薩 北薩 出水 長島[illegible]

工事ニュース、団体・企業ニュース、催し物などは支局、通信部へご連絡下さい。

4年後目標に「都市経営実現」

市政改革大綱素案を諮問

薩摩川内市行革推進委が初会合

薩摩川内市行政改革推進委員会の初会合が12日、同市役所6階会議室であり、公募で選出した二人を含む12人の委員への委嘱状交付式後、会長に鹿児島大学法文学部長の山田誠氏、副会長に川内市公民会連絡協議会長の春田和満氏を選出。岩切秀雄助役から同委員会に「薩摩川内市市政改革大綱素案」が諮問された。

12人の委員に委嘱状が交付された初会合＝薩摩川内市役所会議室で

同大綱素案では、単に人員・組織の削減や行政コストの縮減を第一の目標に掲げた「従来型の行政改革」ではなく、同市のすべての事業事務について①行政が率先して行うべきもの②市民（民間）と協働して行うもの③市民（民間）に任せるものとを峻別、相互に連関させながら、これまでの市政運営の在り方を自ら問い、「都市経営の実現」「事務事業の見直し」「民間活力の活用」を軸に今後の改革の基本的方向性等を示した。今後、同大綱は厳しい財政状況の中で10年、20年後を見据えた組織・職員の行動規範を示すものとなる。また、同大綱と「薩摩川内市総合計画」「財政健全化計画・中長期財政運営指針」、この三つが今後の同市の都市経営戦略を構成することになる。

改革推進の計画期間は概ね17年度から20年度の4年間をめどに実施。改革を計画的に推進するため、各年度の具体的改革措置や数値目標を盛り込んだ「改革アクションプラン」を実施計画として策定、実現を図る。その進捗状況はすべて公表される。

同プラン（素案）では「行政運営から行政経営への転換（都市経営の挑戦）」が明示され、各部ごとの「経営方針」の確立、事務分掌約2050件の見直しと事務事業評[illegible]には約1000人規模に縮小。また「民間企業や民間資金の活用（協働への挑戦）」による外部委託等の推進、PFI手法の導入など、28項目の取り組みプランが素案として示された。

委員からは「市町村によって窓口の対応が大きく違う。行政が変われば[illegible]は今、大変厳しい状況にある。そういう状況下、『運営』から『経営』への転換は納得できるものである」「職員の意識改革が第一である」等の意見が出された。今後、委員会では数回の審議を経て2月中旬までに答申する。委員の任期は2年。

ヤマサハウス川内営業所

「健康住宅」宣言で健闘

福元 正弘所長

ヤマサハウス川内営業所が好調だ。昨年12月の単月で6件の建築確認が下りた。福元正弘所長に好調の秘密を聞いた。

「毎日、コンスタントに続けた提案活動が12月の成果となっただけ。この6件は8、9月の受注物件で、引き渡し予定から逆算して、たまたま12月に集中した」。

同社ホームページによれば、15年度県内新築着工棟数で、積水ハウス、セキスイハイム、大和ハウス工業の県外大手を抜いて208棟、堂々第1位にランクされている。

創業以来、徹底的に「木」にこだわっている。9年4月には県内に先駆けて「健康住宅」宣言を行い、他社を驚かせた。最近では鹿児島で栽培のケナフを使った和紙を壁紙に使用するなど、「体と心に健康な住まいづくり」の提案にさらに深みを加えた。これが購買者のニーズに合致し、今も好調を維持させているのだろう。

「県外大手も実は、地域の風土に合うのは『木造』だというのをよく理解している。だから木造住宅対策の勉強に躍起になっているわけです」。

「住宅を供給する側にとって大切なことは、お客さまとのコミュニケーションを通じ、お客さまから多くのことを学び、やはり最後は信頼関係を深めることにつきると思う」。

原木仕入から構造材加工・住宅部材までの一貫生産と県下7拠点のネットワーク。88回を超えた加工センター見学会「住まいづくり探検バスツアー」（毎月1回開催）。地震・台風・シロアリ・湿気対策の標準仕様。さらに室内環境調査・気密測定の実施。現場には施主の家族写真とともに作業手順、図面等が貼られた「コミュニケーションボード」が設置されている。いずれも施主との「深い信頼関係を構築するための工夫」だ。

「しかし、大手はインテリアコーディネートの仕方が、例えば色合いや部材の使い方が洗練されている。私どものこれからの課題です」。

ヤマサハウスの人気の秘密は、この辺りにありそうだ。

川内・出水管内の12月期確認状況

山佐産業6件で突出

㈱鹿児島建設新聞川内支局は、川内土木事務所、出水土木事務所管内の12月期の建築確認状況をまとめた。

【川内土木事務所】

川内土木事務所管内の12月期建築確認件数（川内支局調べ）は53件で、そのうち住宅新築が35件、住宅増築が3件だった。住宅新築の延べ床面積の平均は約160・47平方㍍、増築では、約21・4平方㍍だった。

住宅新築（35件）の構造別ではW造が33件、S造が1件、RC造が1件で、木造比率は約94・3%だった。

12月期の住宅建築確認の施工者別（判明分）では、管内企業（2件以上）は植村組の2件だけだった。県内企業では山佐産業（ヤマサハウス）が6件と、他社を圧倒、ダントツに件数を伸ばしたのが注目される。

県外ハウスメーカーの状況は、住宅では大和ハウス工業、東日本ハウス、タマホームが各1件と低調だった。共同住宅では大東建託2件、大和ハウス工業が1件だった。

【出水土木事務所】

出水土木事務所管内の12月期建築確認件数（川内支局調べ）は27件で、そのうち住宅新築は13件、住宅増築がゼロ件だった。住宅新築の延べ床面積の平均は約130・08平方㍍だった。

住宅新築（13件）の構造別ではW造が11件、S造が2件で、W造比率は約84・6%だった。

住宅確認件数のうち施工者別（判明分）では管内・県内企業とも低調だった。

県外ハウスメーカーの状況は、住宅では鹿児島セキスイハイムが2件、タマホームが1件で、前月期と同件数だった。

社員らが内緒で還暦祝

[illegible]税理士法人[illegible]ープ企業の忘年会での[illegible]神園会計事務所（神園[illegible]こと。司会の竹下幸夫監査課長が「開宴の前[illegible]あります」と[illegible]代表を突然、舞台に上がらせた。

「実は社長が今年還暦を迎えました。社員一同でお祝いを差し上げたいと思います」。何も聞かされていなかった神園代表。社員の心持ちに感動、満面笑みを浮かべて女性社員から記念品と花束を受け取った。

来賓の一人として出席していた松下忠洋衆議。「こんなことなら私も何かお祝いを持っ[illegible]る五色のポケットチーフを取り出し、「これは便利なもので、赤や黄色を出せばお祝いの席に、黒なら葬儀に使える」と実演。会場を沸かせた後、神園代表に贈った。「かつて人生60年と言われた。しかし、まだまだ。来年（今年）は昭和でいえば80年の節目の年。いい知恵を出し、地域のためにもっとがんばってほしい」と激励した。

阿久根市図書館・郷土資料館

来月3日まで 指定管理者を公募

阿久根市は、同市立図書館及び同市立郷土資料館の指定管理者を募集している。募集する施設数は2施設だが、一体的に管理し2施設を効果的に運営していくことにより、利用者へのサービス向上が図られるとの観点から、募集団体は2施設で1団体とする。

応募は2月3日まで（休館日を除く）、午前8時30分から午後5時まで阿久根市立図書館で受け付ける。提出方法は郵送または持参。

応募資格は、①法人その他の団体であること（法人格の有無は問わない）②阿久根市内に事務所もしくは事業所を有する団体であること③その他。指定予定期間は17年4月1日から20年3月31日までの3年間。

提出書類は、同市指定申請書に基づき応募資格証明書類や指定管理者としての事業計画書、管理に係る収支予算書等、6項目の書類が必要。提出書類は返却しない。

問い合わせは、阿久根市立図書館（同市高松町2 ☎0996・72・0607）まで。

西松建設で施工

大城耳鼻咽喉科医院（薩摩川内市）新築

大城浩氏が薩摩川内市平佐町に計画していた大城耳鼻咽喉科医院新築の施工業者は西松建設に決定した。1月末に着工、竣工は5月中旬を予定。設計は大城徳信氏（沖縄県南風原町）。建物はS造2階建延べ262・31平方㍍。建設地は同市平佐町並松3414−2他。

3県架橋構想推進地方大会

22日に出水市で

16年度島原・天草・長島架橋と九州西岸軸構想推進地方大会が22日、出水市の出水市文化会館で開かれる。主催は3県架橋議員連盟、島原・天草・長島架橋建設促進協議会、九州・山口経済連合会。参加者は1000人（うち本県関係は800人）を予定。同構想の意義や必要性、開発効果等をアピールするとともに、地元の熱意と期待を示す。

伊藤県知事らが主催者挨拶、渋谷俊彦出水市長らが地元代表意見を発表を行い、提言や大会決議をする。

お手軽で便利な
購読料のお支払いは
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ